

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和3年 12月 16日

事業所名 ホッグ東住吉

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	○		蜜にならないよう心がけています	広くはないスペースの有効利用を検討します
	2 職員の配置数は適切である	○		児童の特性に個別に付く場合もあります	職員数だけでなくより専門性を持った職員を配置するよう心がけていきます
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		室内の段差などはないようにしています	バリアフリー化については出来ていると思います
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		課題や事象については随時共有している	振り返りや職員間のコンセンサスの部分をより注力したい
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		令和3年11月にてアンケート配布実施	様々な要望にどう応え、どう対処するか検討していきます
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて掲載	認知度を上げるよう努めます
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	現時点では評価には至っていません	今後も引き続き外部評価の導入を検討してまいります
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		オンライン研修や勉強会を増やしました	外部研修に参加できず、その機会を作りたい	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		家庭での様子も確認し随時行っています	様々なニーズにどのように応えるかについて検討が必要
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		随時見直しを掛けております	家庭環境での様子やその把握を行うことが課題です
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員により担当児童を分けより詳しく提案できるようにしています	障がい特性が大きく違うため活動内容の幅を広げたいと思います
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		自主性を重んじた取り組みをしています	コロナ禍が続くことも考えられ室内プログラムをさらに検討します
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		児童により取り組みを変えています	コロナ禍が続くことも考えられ室内プログラムをさらに検討します
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		各児童の障がい特性に合わせて支援しています	障がい特性が大きく違うため集団活動における内容を検討いたします
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		随時共有できるようにしています	職員の勤務数により以前の様子などの把握を課題とします
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		気づいた点や事象について共有しています	共有レベルを上げることを目標にしていきます
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		児童別に気づいた点を記録するようにしています	より簡潔に記載するようにしていきます
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		長期、短期の目標設定の達成度合いにより見直しの判断をしています	目標が高すぎることをないよう努めます	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		自立支援中心に注力しています	コロナ禍もあり地域交流等の外部活動が課題です	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者を設けております	利用頻度の低い児童のより一層の状況把握に努めます
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校との共有を増やしています	学校により連携度の違いを埋めるよう努めます
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		発作時の対応等を周知しています	有事に備え体制をより整えてまいります
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		担当者会議等にて情報共有できるよう努めています	より一層の連携実施に努めてまいります
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		担当者会議等を含めて連携をしております	より一層の連携実施に努めてまいります
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		連携の対象児童がおりません	連携が必要な際は連携を深めるよう努めます
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		現在まで機会がありません	交流する機会があれば積極的に検討してまいります
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		地域の連絡会への参加をしています	開催時間等の機会があれば積極参加してまいります
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		様々な確認手段にてご相談などにて共通理解を図るよう心掛けています	家庭や学校の様子などの把握が課題です
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		ご相談に對してできる限りの助言や訪問を行っております	児童の様々な状況からさらに助言できる体制づくりを心掛けていきます
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		丁寧な説明を心掛けています	引き続き丁寧な説明をしていきます
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		様々な取組みや試みをした上での助言などを行っています	知識や経験を増やしより有効な助言ができるよう努めます
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者同士の連携に配慮しています	現在は保護者会等は設けていません。今後の課題といたします
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		迅速に対応するよう心掛けています	職員個々の対応スキル向上に努めます
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		イベント等の予定のお知らせ等を発行しております	ホームページ等の活用を課題としています
	35	個人情報に十分注意している	○		十分に注意し取り扱っております	新しい職員への意識付けに努めます
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		保護者様に応じて様々なツールを使用しています	絵カードなどツールの更新などを検討してまいります
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	○		コロナ禍もあり外部招待などは行っておりません	今後はプライバシーを確保しつつ検討してまいります

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	マニュアルに工夫し周知するよう努めています	保護者の方に周知出来ていない部分もあり課題としております
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	様々な有事を想定し実施しています	より実際に近い訓練を心掛けます
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	研修への参加や勉強会をおこなっています	様々なケースを想定し研修機会確保に努めます
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	対象となりうる場合は支援計画に入れ、かつ保護者への説明を行っています	記載内容がわかりやすよう努めます
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	指示に基づいて対応しています	保護者様との認識違いがないよう努めます
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	閲覧できる状態にしています	振り返りやヒヤリハットの勉強会を検討します